

局所進行非小細胞肺癌に対する術前導入化学放射線療法の効果判定における FDG-PET の有用性に関する検討

肺がんに対して抗がん剤治療や放射線治療を行う場合、通常はCT検査で腫瘍がどの程度小さくなったかで治療の効果を判定しますが、実際の顕微鏡を用いた病理組織検査の結果と食い違うこともしばしば見られます。そこで、平成19年10月から平成21年1月までの間に川崎医科大学附属病院胸部心臓血管外科で肺がんの手術を行った患者さまのうち、手術前に抗がん剤治療もしくは抗がん剤と放射線治療を併用して行った方を対象として、CT検査とPET検査のどちらが病理組織検査の結果をより反映しているかについて研究を行っています。あわせて、手術で採取された組織を用いて、肺がん細胞の増殖因子MIB-1や糖代謝にかかわる因子Glut-1についても研究しております。遺伝子の検索は行っておりません。対象としていますのは、手術を受ける際に「手術で採取された病理材料の取り扱いと医学教育・研究使用に関する説明・同意書」にて同意を頂いている方ですが、組織検体を研究に用いることについて同意を撤回される希望のある方は川崎医科大学附属病院胸部心臓血管外科ホームページから電子メール、または川崎医科大学病院代表(086-462-1111)から胸部心臓血管外科教室(内線 25517)まで連絡をお願いいたします。なお、この研究は川崎医科大学倫理委員会の審査・承認を得ていません。【担当者：中田昌男】